

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392400028		
法人名	社会福祉法人誠和		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	岡山県瀬戸内市牛窓町長浜1825-1		
自己評価作成日	H26年3月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾209-1
訪問調査日	H26年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内でのネットワーク作り、連携することでこれまでの生活の繋がりを大切にしています。利用者が安心して、落ち着いた生活ができるように、個人の生活リズム、プライバシーを尊重し、穏やかな生活を提供することで第2の我が家と感じて頂けるよう努めています。職員、利用者の和を大切にし、笑顔で優しい声掛けをモットーに、誠意をもって利用者に接するようにしています。利用者同士の関係づくりにも配慮し、共同生活を営む者同士の、助け合いの関係が出来るように援助しています。利用者、家族の交流の機会を設け、気分展開が図れるように援助しています。回想法、音楽、フラワーアレンジ、壁画制作等を取り入れ、生活の活性化へ向けレクリエーションの充実にも取り組んでいます。認知症、身体機能の低下予防につながるように、利用者に合わせたリハビリの充実に務めています。利用者個々の特技を、行事の中で披露する機会を設け季節を感じていただけるような行事計画も取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人 誠和として地域への勉強会や情報発信をして地域交流に努めています。今年度は社会福祉法人の理念を基に、全職員で作成したグループホームあじさいの理念「一人ひとりの思いの詰まった暮らしを大切に心に響く介護をします」「全てのひとが笑顔で過ごせる明るいホームを目指します」の実践に努めています。職員の努力が評価出来るようキャリアアップ制度の導入があり、目標を持って働ける環境になっています。現状に満足せず、利用者の生活の質の向上を目指して全職員で努力されている様子が見られました。利用者の穏やかな表情と食後の団欒での楽しい笑顔も見えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を法人理念とは別途定め、掲示し、毎朝復唱。利用者の立場に立ち利用者を理解し、利用者にしあわせを感じて頂けるように、誠意を持って笑顔でやさしい声かけに努めている。	法人理念をもとにグループホームの理念を全スタッフで作成し、その理念を皆で共有して実践に繋げている。	これからも今年度作成された理念を共有し、全職員で実践して下さい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居以前からの地域の方とのお付き合いが継続できるように配慮している。地域行事参加も機会があれば計画し、地域交流スペースにくるボランティアの演芸等にも参加し、交流を図っている。	地域の行事(だんじり、運動会籐)や事業所の夏祭り(参加者400名余、ボランティア100名)等で地域の方との交流が来ている。また以前入居されていた方が先生、友人と一緒に来られてのバイオリンコンサートもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として地域貢献を促し、地域への勉強会や他施設への研究報告の場の開催。スタッフも地域の一員として、情報発信できるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績、現状報告、現在取り組んでいること等の報告を行ない、理解を深めていただくようにしている。年に数回は、行事を同時に開催し、参加メンバーを増やす努力をしている。	民生委員、家族、市議(地区)、市職員の参加で開催し、事業所の現状や取り組み等を報告している(大雨や台風時に道が浸水したことがあるので対策等の話もしている)。参加メンバー増に繋げるため来年度より平日開催も考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、待機者の状況等報告。担当官との情報交換を行い、必要に応じ情報提供も行っている。	市開催の感染症の勉強会参加や事業所の状況報告、情報交換をして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としてマニュアルを作成し、内部研修職員会議で意識統一を図っている。	身体拘束についての勉強会を年間計画の中に取り入れている。また報道や新聞記事等に取りあげられる度に話し合い等をして意識統一をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で職員の意識を高め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で職員の意識を高め、防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の現在の状態を把握できるように聞き取りを行い、家族の不安・疑問点に応えるように努めている。外部評価の結果についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が改善提案し、職員会議で話し合い、改善意識を育てるようにしている。	グループホーム通信の送付時や意見箱、家族の面会、カンファレンス時に意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人として、職員の努力が評価できるようにキャリアアップのシステムを導入している。毎年、職員各自が自主研修計画を立て振り返るように、目標を持って働けるような環境にしている。	自主研修計画を年度初めに立てて半年ごとに振りかえるようになっているので、研修希望の把握にも繋がっている(職員の提案でウッドデッキの全面貼り替えやリフト浴機の導入も調整中である)。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間を通じて、法人全体の内部研修、グループホーム内部研修、資格取得準備勉強会等を計画し、希望に応じて参加できる環境を作っている。また、職員各自に合った外部研修に順次参加できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人一人の目標に合わせ、年間を通じて法人全体の内部研修や、グループホーム内部研修、資格取得準備勉強会等を計画し希望にて参加できる環境を作っている。又、各自に合った外部研修に順次参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で各事業所とネットワーク作りを行い連携を取り、色々な情報交換を行っている。研究報告会を開催し、近隣施設への声かけを行っている。介護支援専門員協会を通じての交流、外部研修等で交流・意見交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご家族等からこれまでの生活についてお話を聴き、不安に思うことがあれば時間をかけて説明し、生活の中でご本人の意向を確認しながら不安を軽減できるように信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活の様子、介護上の困ったことなどを聴きながら、ご家族の不安、要望を聞き取ることで、できるだけ安心していただけるように配慮している。家族通信の配布、面会時の様子説明等、要望を言いやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基に、必要なサービス提供ができるように、暫定介護計画を作成し、職員で共有、入居後は、利用者の様子を観ながら介護計画の修正を行っている。また、かかりつけ医へ受診等、移送サービスを利用できるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じて、できる部分については取り組んでいただけるように声かけ・見守り、必要に応じて職員が手伝うことで共同生活者という実感を感じていただけるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流の場を、多く設けるようにしている。また、利用者のご家族が気軽に外食を計画できるように普段より居室担当者が、ご家族と連絡できる体制をつくり、ご家族と協力関係を保てるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの関係が保てるような外出、面会を歓迎している。又、デイ利用をしていた方は、本館売店に買い物時等に会える機会を持っている。	入居前に利用していたカラオケ、実家に行くこと等で家族の協力も得ながら馴染の関係が途切れないように支援出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格など把握し、弱い立場の利用者にもいたわりの目を向けていただけるように働きかけている。状況に応じて、席替えをして、より良く利用者間の関係が保てるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者のこれまでの関係が保てるような外出、面会を歓迎している。又、繰り返しの面会が出来ている。また、認定更新等のカンファレンス時には家族への参加を促している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動や表情から 利用者の気持ちを汲み取ることで、利用者の思いを尊重し、個々の意向の把握に努めている。	表情や行動から思いや意向の把握に努めている。先日箸の持ち方から片目が見えてないことが分かり、家族に受診の同行を依頼した方がおられたようです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取りこれまでの経過を把握するようにしている。回想法の中で得た情報も役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活スタイルを尊重している。利用者のその日の状態に合った声かけができるように小さい変化にも注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきシートを基に、定期的・計画的なカンファレンスで、利用者の立場に立ち検討している。また、参加可能であればご家族にカンファレンスに参加していただき、ご意見、意向を介護計画に反映している。	カンファレンスに家族が参加されることでいろんなことを理解してもらえるので、参加の呼びかけをして、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	これからも本人・家族や必要な関係者と話し合い、利用者にとってよりよい介護計画の作成に取り組まれる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表など、情報共有しやすい工夫をしている。他に気づきシート、モニタリングシートに日頃の気づきを記入することで、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの現状に合わせて柔軟な支援を心がけている。受診などご家族の状況に合わせて、移送サービスを利用できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域の面会者等の関わりが継続でき、利用者の生活に楽しみができるように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活のかかりつけ医を継続できるように支援している。受診する場合は、職員が同行し日頃の様子、体調の変化を伝えている。利用者によっては、週1回・隔週の往診がある。必要に応じて、歯科医の往診もしてもらっている。	利用前からのかかりつけ医での受診には日頃の体調等を伝えて適切な医療が受けられるよう支援をしている。嘱託医の往診では利用者全員のことも相談出来るので利用者・家族、又職員の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェック等の健康管理で早期発見できるように配慮している。法人内他部署の看護職と連携をとり、いつでも相談できるようにし、早期受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の生活状況、健康状態等を情報提供している。また、入院の状況に合わせて、診療計画を示していただくことで、できるだけ早期退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より面会時に、現状を説明している、重度化に向け、運営推進会議、家族会などで話を出して心の準備、意向を聞く機会を作っている。主治医と連携し、支援している。	看取りを希望されていた方も発熱により入院されて、実際の看取りまでは出来ていないが、来年度より重度化の対応や緊急時の見直しを含めて医療連携を密にする取り組みを考えているとのこと。このたび喀痰、吸引の勉強した人の異動があったようです。	利用者、家族の方が安心される医療連携を密にし、早い段階から重度化や終末期に向けた支援について話し合いを行い、関係者と共にチームでの支援の取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受け、救急法・AEDの対応を身につけるようにしている。緊急時・事故発生時マニュアルの周知徹底、見直しを、定期的に職員会議等で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、出火場所等事前に知らせず、けが人等動けない方の想定もしている。毎月、防災自主点検を行うことで、職員の防災に対する意識を高めるようにしている。マニュアルは、定期的に見直しを行い、他の災害についても法人全体での訓練に参加し、地域との協力体制がある。	緊急時の連絡網を使つての訓練や消防署の方の参加の避難訓練をして利用者が安全に避難出来る方法を意識づけしている。特に水害対策には地域との協力体制を築いている。	今後とも地域との協力体制を築き、災害対策の継続に期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格、生活スタイルを尊重し、馴れ合い的な口調になりがちだが、失礼のないやさしい声かけをするように心がけている。	常に家族が側にいるつもりでの言葉かけや支援をするようにしている。髪をいつも結っていた方が短髪にして利用されるようになったが、また前のように結うようにされると落ち着いてこられたという話を聞いた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない声かけの中に、自己決定に繋ぐことができるような声かけを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースやこだわりを尊重し、穏やかに過ごしていただけるように、その時々に応じた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃は、整容、散髪等気持ちよく過ごせるように支援している。利用者に合わせて、お化粧品、ネイル等も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の利用者の様子に配慮しながら、無理のない範囲で声かけし、手伝っていただいている。また、行事に合わせた調理の工夫も行い、食事をゆっくり食べていただけるようBGM等を工夫し、楽しい時間になるように配慮している。	毎月本館の管理栄養士に相談や見てもらっての献立を毎食手作りしている。誕生会には当事者の好みの食になっていて、食事を楽しむことの支援が出来ている。行事食や外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みを取り入れた献立、個々に合わせ食事摂取がスムーズに進むように、量・形状など配慮している。水分、食事摂取量のチェックを行い把握に努めている。又必要に応じて栄養補助食を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医に相談し、指導してもらっている。嚥下機能のリハビリも兼ねて口腔体操を取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、さりげない声かけで、できるだけ失敗がないように援助している。	排泄パターンを把握してさりげなく声かけするようにしてトイレでの排泄を支援している。夜には居室でのポータブルトイレ利用されている方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩、ラジオ体操、リハビリ体操などできるだけ身体を動かす機会を設けている。便秘気味の方の水分摂取、食材等に気をつけている。排便時困難な方には、腹部マッサージを行っている。必要に応じて主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調、精神状態に合わせ、負担にならないように配慮している。入浴剤を入れ、香を楽しむこともでき、肌の乾燥の予防策にもなっている。	入浴拒否の方もおられるが、無理のないよう配慮している。入浴剤、肌の乾燥予防には保湿クリームやベビーシャンプーを使用する等で個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活パターンを尊重し、習慣、健康状態に合わせて必要な休息がとれるように配慮している。利用者の状態に合わせ、足浴を行い安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より処方の変更時には、薬の説明を受け、書面で職員が理解できるようにしている。症状の変化については、随時主治医に報告・相談を行っている。服薬介助には、誤薬がないように、確実な服用を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの楽しみがグループホームの生活の中で継続、活かせるように一人ひとりを把握し、行事では、お茶を点ててもらっている。日本舞踊もあり披露できる場を作るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近くへの外出は、ドライブ等で随時行えている。墓参り等個々の意向に沿ったものは、家族の協力やカラオケなどスタッフの対応でも行えている。普段からご本人の希望を把握するように努めている。	普段から本人の希望を把握するように努めているが、今回からドリーム企画(2カ月に1回本人の行きたい所へ出かけられる)が設けられることになった。季節行事の外出や外食、ボランティアの方が来られた時の外出もある	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により自己管理しておられる利用者もいる。そうでない利用者についても、法人での夏祭り、個人の買い物時などお金を持っていたけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にそってご家族への電話の取り次ぎは行っている。親族、友人からのハガキ等が来た時は、返事を出せるように声掛けを行うなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出せるように配慮している。リビングにソファ、和室にこたつを置き、利用者それぞれに思い思いの場所で過ごせるように配置にも工夫している。日にちが解るようにカレンダーを手作りしている。	共用の空間は皆で作成した大きな桜の壁画、温度、湿度(40%)、空気清浄機を設置して居心地よく過ごせるように工夫されている。食後和室で横になって休まれている方や友人とソファで団欒されている方もおられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもウッドデッキ等、他利用者と離れても過ごせるように、利用者個々の状態で選ぶことができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、ご本人とご家族で相談し、使い慣れた愛着のある家具などを置き、ご本人が落ち着けるように自由に使ってもらっている。カーテンは、ご本人・ご家族の好みの物を持ってきたりしている。	居室には息子さんと相談されて落ち着いた家具やTVを置いたり、思い出の品や仏壇を持ってきて居心地よく生活できるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で手すり等を使ってできるだけ、安全に生活できるように配慮している。利用者一人ひとりの状態に合わせてシルバーカー、車椅子などを使用している。		